



KIT-AURORA

- Team Profile
- Development Status
- Member / Department System
- Partnerships / Funding

2026

1st Half Edition



ご支援について【パートナー契約制度】

Support

KIT-AURORA では、多くの皆さま（企業・団体及び個人）からのご支援をお待ちしております。ご支援いただくと、イベントへのご招待や KIT-AURORA 公式サイトへの掲載など、枠組みや区分に応じた特典を提供いたします。

ご支援の方法

企業・団体パートナー

チーム運営費支援

機材・物品提供

開発支援・共同開発

個人パートナー

チーム運営費支援

資金については、九州工業大学基金のプラットフォームを通じて【寄附】としてお受けいたします。機材等の提供やその他支援については、それぞれに合わせて協議を行わせていただきます。KIT-AURORA が定める募集要項と九州工業大学基金のサイトを十分にご覧になったうえでお申込みください。

パートナー枠組みと区分（企業・団体）

支援方法	契約枠組み	パートナー区分	適用条件（※抜粋）
チーム運営費支援	サポーター	一般区分	一律適用
機材・物品提供	サプライヤー	ゴールド区分	2年以上契約 年 15 万円以上 or 物品継続提供
開発支援・共同開発	テクニカルサポーター	プラチナ区分	3年以上契約 年 30 万円以上 or ゴールド条件両方

九工大会員制度（運営費支援の場合に重複適用される場合あり）

法人	年間寄附額	ステータス名称	
	20 万円以上	ブロンズ会員	KIT-AURORA への運営費支援を行った際に、左の表の基準に当てはまる場合は、産学官連携のつながり形成・九州工業大学の学生との交流イベントへのご招待など九州工業大学が提供する特典が提供されます。 個人からの寄附も別の基準で九工大会員制度が適用され、ステータスと特典が提供されます。詳細は、九工大会員制度（個人）のサイトをご覧ください。
	50 万円以上	シルバー会員	
	100 万円以上	ゴールド会員	
	500 万円以上	プラチナ会員	

寄附に対する税制上の優遇措置について

個人の皆様

KIT-AURORA への寄附の場合、所得税の所得控除が適用されます。また、個人住民税の軽減対象自治体は福岡県、北九州市・飯塚市です。

法人の皆様

九州工業大学は法人税法上の指定により、寄附金の全額を一般の寄附金の損金算入限度額と別枠で損金算入することができます。

ご支援についての詳細・お申込み・お問い合わせ

KIT-AURORA 公式サイト・九州工業大学基金サイト等へは、QR コードからアクセスいただけます。お問い合わせフォームはサイトに用意しております。契約特典が掲載されているパートナー募集要項の PDF 資料もご覧いただけます。



ご支援について
[WEB]



九工大基金
公式サイト



パートナー
募集要項

KIT-AURORA OFFICIAL PARTNER



TSUCHIYA



MiSUMi

Matex
マテックス株式会社



住友重機械工業株式会社



amulapo

DIGI



吉川工業ファインテック株式会社
Yoshikawakogyo Fine Tech Co., Ltd.



協和テクノロジーズ株式会社

SCIENCE PARK

九州工業大学
学生プロジェクトスポンサー

YASKAWA
安川電機

I-PRO 株式会社／佳秀工業株式会社／株式会社クラブティア／計測検査株式会社／三連産業株式会社／JFE プラントエンジニア株式会社
住友金属鉱山株式会社／株式会社西部技研／株式会社ソフトクリエイトホールディングス／トヨタ自動車九州株式会社
東亜非破壊検査株式会社／日本酸素株式会社／日本鉄塔工業株式会社／株式会社ネクステック／株式会社松尾設計／（一社）明専会



KIT-AURORA
THE MARS ROVER
DEVELOPMENT PROJECT
from Kyutech, JAPAN
since 2025

九州工業大学火星探査機開発プロジェクト
〒805-8550 北九州市戸畑区仙水町 1-1
九州工業大学戸畑キャンパス 教育研究 2 号棟
KIT-AURORA LABORATORY
お問い合わせ（総合案内）：contact@kit-aurora.jp



公式サイト



公式 SNS / オウンドウェブメディア



For the World, From Kyutech, Kitakyushu.

北九州・九工大から、世界へ。 — KIT-AURORA Team TAG-LINE

火星探査機（ローバー）の国際大会「University Rover Challenge」出場を目指す九州・西日本初のチームとして、世界に挑みます。

これまでも北九州をはじめ、多くの皆さまに支えられて活動してきました。

九工大・北九州が持つポテンシャルを、世界の舞台で最大限アピールすることこそが、皆さまに対する感謝の想いであると考えています。

地方都市からも世界を目指すことができるという一種のロールモデルを確立していけるよう、研究開発に取り組んでいきます。

火星探査機開発を通じて、「技術に堪能なる土君子」を体現する。

KIT-AURORA が大切にしているのは、研究開発の技術的能力だけではなく。広報・渉外業務など、組織のマネジメントやスケジュール管理等のシステムエンジニアリングなど、プロジェクトを円滑に遂行するためのあらゆる能力を、メンバーそれぞれが、それぞれの強みを活かして活動することを求めています。それは、まさに九州工業大学（旧明治専門学校）の創設者・安川敬一郎と初代校長・山川健次郎が掲げた本学の建学の精神「技術に堪能なる土君子」の育成に通ずるものです。

これまでのあゆみ

AURORA' s History

- 2024.04.19**
CanSat プロジェクトとして
KIT-AURORA を立ち上げ
- 2025.03.08**
種子島ロケットコンテスト出場
CanSat 部門自律制御カムバック
- 2025.04.01**
火星探査機開発プロジェクトとしての
KIT-AURORA が発足
- 2025.07.16**
学生プロジェクトとして正式認定
- 2025.11.24**
初号機【PIONEER】完成
- 2025.11.26**
鳥取砂丘の月面実証施設「ルナテラス」にて初号機の走行試験を実施
- 2026.01.29**
クラウドファンディング終了
達成率 167%（当初目標 80 万円）
- 2026.03.18**
2号機【TENACITY】完成
- 2026.03.19**
URC 2 次審査結果通知
2026 大会の本戦出場はならず
- 2026.03.20**
初の公式戦（国内大会）
鳥取ローバーチャレンジ 2026
エキスパート部門 第5位

組織体制

Department System

研究開発本部	マネジメント本部
構造ユニット	渉外ユニット
制御ユニット	広報ユニット
電装ユニット	クリエイターユニット
サイエンスユニット	

数字でみる KIT-AURORA

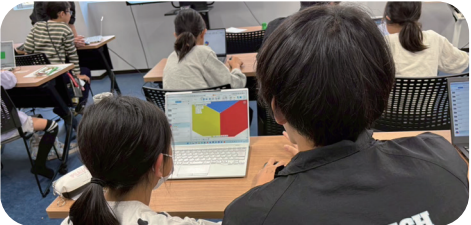
Figures

メンバー人数	68 名	ローバー製作数	2 機
2025 年度学生プロジェクト 最終審査順位	2 位	Giving Campaign 2025 企業賞受賞数	3 社
2025 年度 パートナー契約数	10 社	2025 年度 寄附金総額	130 万円

※パートナー契約数には、未公表の会社を含みます。
※寄附金は、クラウドファンディング（手数料を除く）と Giving Campaign 企業賞で頂戴した金額の合計（千以下切り捨て）です。

社会への取り組み

Social Impact



子ども向けエンジニアリング講座

プログラミング・CAD に

親しみを持ってもらうための科学教室

特定 NPO 法人 Fukuoka Robotics Challenge との共同開催

2025 年 11 月、本学の産学連携の推進拠点「GYMLABO」にて社会貢献活動の一環として、小学生向けのプログラミング・CAD 教室を開催しました。

ひとり2役制度（開発+マネジメント）

さまざまなタスクを担当することで、幅広い経験を持ったエンジニアを育成することを目指したシステムを採用。

火星探査機（ローバー）のアウトリーチ

YOXO Fesivial

オープンキャンパス

工大祭学生プロジェクト EXPO

横浜市みなとみらい 21 地区で開催されたイベントに参加しました。ARES Project などの学生団体とともに、来場者にローバー機構の説明などを実施しました。

また、本学で開催された各種イベントに積極的に参加し、探査機についてご紹介しました。

研究開発

Development

2025.09.10 AURORA-0 Experiment Rover 砂地を走行できるタイヤ形状を検証するために製作した機体。 	2026.03.18 AURORA-2 [TENACITY] Rover for Fighting TRC Competition 大会出場機として製作。 アームや科学探査に用いるモジュールなどを初めて実装した機体。 1 日目の不調から起死回生の部品交換で、2 日目のミッションを乗り越えた不屈の精神を持つ機体。
2025.11.24 AURORA-1 [PIONEER] First Rover 本格的なローバーとして初めて製作した機体。 ロッカーボギー機構など求められる構造を実装し、鳥取砂丘でのテストランを行った。 	

2026 年度達成目標 [サクセスクライテリア]

FY26 Success Criteria

ミニマムサクセス 鳥取ローバーチャレンジ 出場	フルサクセス University Rover Challenge 本戦出場	エクストラサクセス 鳥取ローバーチャレンジ 優勝
---	--	--

活動 2 年目となる今年度は、成果責任を追求する目標を立てました。

システムエンジニアリングで多用される「サクセスクライテリア（達成目標）」を大会出場、優勝に据えることでメンバーが大幅に増加し、組織運営が難しくなるなかでも明確な目標を共有し、同じ目線で意思疎通がとれるよう意識しています。組織運営面の強化にも注力し、盤石な体制の構築とタスクの体系化、営業・広報活動の多角化による知名度の向上も図っていきます。

財務計画

Financial Plan

支出【概算】

 ローバー開発費 130 万円	 設備投資費 25 万円	 渡航・運搬費 250 万円
---	--	--

収入項目

※大学からの支援金は公開できないため、収入については項目のみ掲載し、具体的な金額を記載いたしません。ご了承ください。

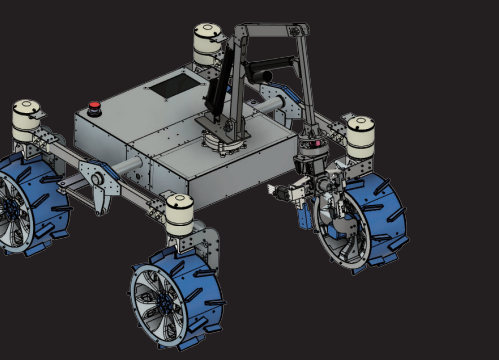
大学からの支援金	部費	寄附・協賛金
-----------------	-----------	---------------

2026 年 2 月より新たな拠点での活動をスタートさせ、より研究開発に注力できるよう昨年に引き続き、設備投資を積極的に実施して、良好な環境整備に努めます。

また、米国への渡航が決定した場合、旅費や運搬費が相当な額かかることが想定されるため、寄附や協賛金といった大学以外からのご支援の獲得にも取り組んでまいります。

資金調達の実施計画

Giving Campaign 2026 参加予定 （関連イベント含む）	クラウドファンディングプロジェクト URC 確定後に実施予定
--	---

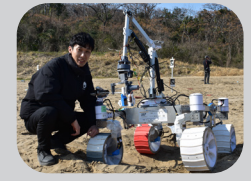


Now Designing Next Rover

AURORA-3 [CAMEL]

チームメンバーの声

Member' s Voice



尾添 建太
プロジェクトマネージャー兼
研究開発本部
サイエンスユニット
理論グループ エンジニア

URC のミッションの 1 つ「科学探査」は、ローバーでの探査に加えて、審査員へのプレゼンを通して評価される特徴的な項目です。そのため、ローバーの機構だけでなく、化学・地学・生物学など多岐にわたる理学分野の知識や、それらをミッション設計に落とし込む力が求められます。

昨年度はユニット内に機構設計・理論という明確なグルーピングがない中、生命探査のアプローチや実験手法について検討していましたが、機構の完成が必達とされる分、理論の面では十分な取り組みができたとはいえませんでした。

今年度からは、理論グループとして独立し、大会に通用する基盤を整えていきます。



国武 勇太郎
研究開発本部
電装ユニット
ユニット統括担当
チーフエンジニア

昨年度は電装ユニットのチーフエンジニアとして回路設計と低レイヤーソフトウェアを統括しました。大会本番で「動いて当たり前」を実現するために、素子選定から電源・通信を含むシステム設計、配線や保護回路の検討まで、壊れにくく、不具合の起きにくい構成になることを意識して取り組みました。

今年度は、3号機「CAMEL」での通信部分の信頼性向上と冗長性の強化を後輩と進めると同時に、新人教育に力を入れ、4号機以降のより良いローバー開発につながる知識と技術の継承を丁寧に行っていきます。